

廃棄物の有価物化によるコスト低減

三菱重工業株式会社 工作機械事業部

事業目的	設備の導入及び更新することにより、廃棄物として処分していたものを、有価物化し廃棄物の減量を図る。
事業概要	<p>研削廃液処理装置更新工事 現在、研削廃液を蒸留装置で水分を蒸発させ排気ファンにて大気放出している。蒸発されない残渣は業者委託しているが、今回水分を大気放出させず冷却して水分として回収する減圧蒸留システムに更新した。 水分蒸発後の装置内の残渣の一部は有価物化し、水分については研削水補給水の再利用を図る。</p> <p>廃棄物置場新規設置 現在の廃棄物置場は、場内で発生した廃プラスチックを単に集積している状況である。今般、PE材、硬質、その他に分別するとともに種類別に集積し有価物化を図る廃棄物置場を設置する。</p> <p>廃プラスチック圧縮減容梱包装置導入 現在梱包材等から排出される廃プラスチックを産廃業者に直接委託し処分をしている。軟質、硬質等の区別の徹底、圧縮装置による減容化を行い、有価物化を図る。</p>
事業結果	(H21年度は、年度の途中に設備を導入したため、実績及び効果については、H22年度より)
今後の課題	<p>目標：平成22年度以降は、平成21年度の廃棄物発生量の実績より、残渣80%、廃プラスチック約90%を有価物化にする。</p> <p>課題：廃プラスチックについては、取引業者の目途はついた。残渣に関しては、さらなる分別が必要である。</p>